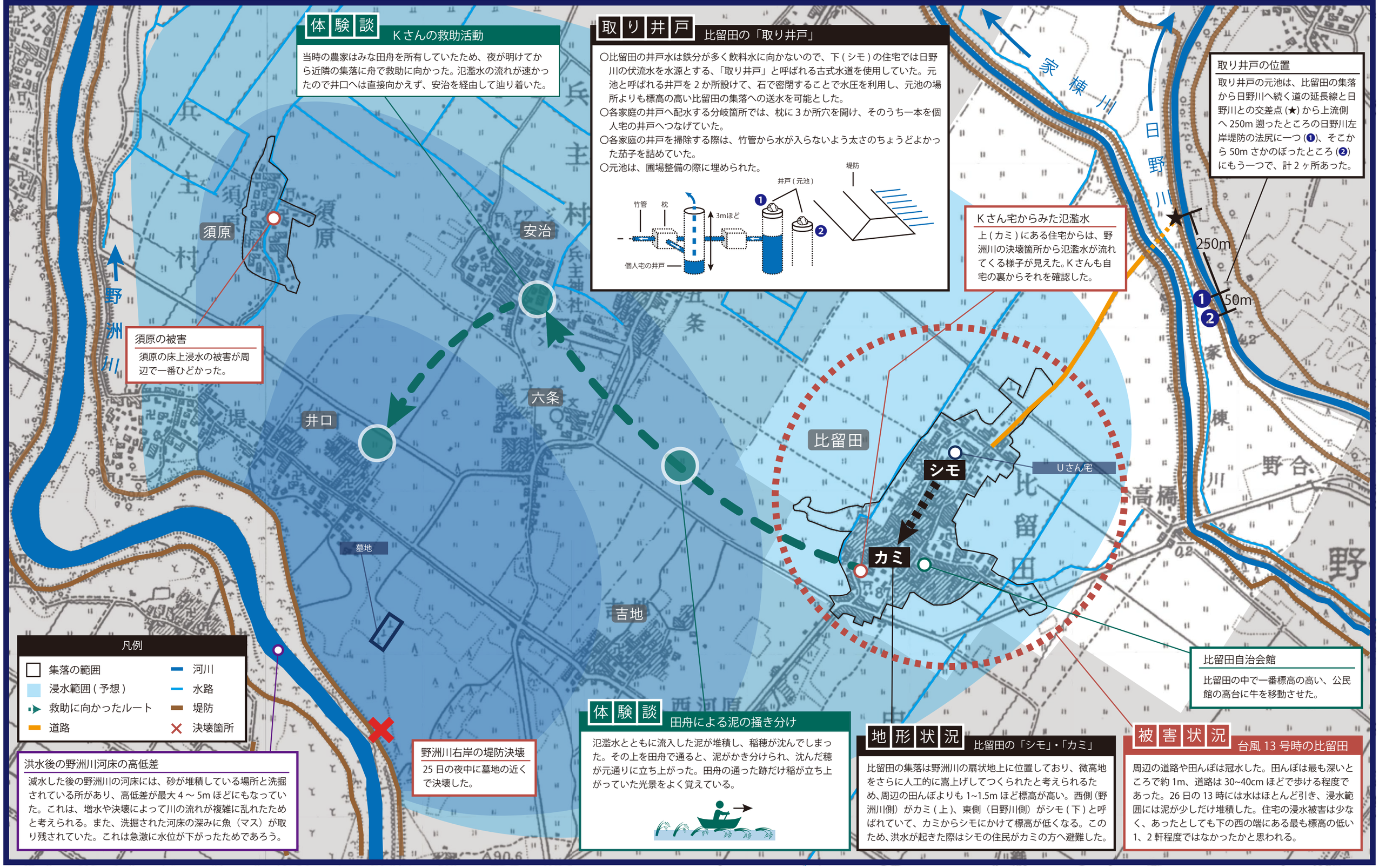
# 滋賀県野洲市・比留田水害履歴マップ❶　1953( 昭和 28）年 9 月 25 日 ( 台風 13 号 )

■昭和 28 年 9 月 25 日 ( 台風 13 号 ) 被害状況
■水防活動・避難行動　■水害後の救助活動・復旧活動　■地理状況

2022( 令和 4) 年 10 月 12 日の比留田自治会館での聞き取り調査に基づき作成
※浸水範囲の詳細は不明であったため、大まかに表記している。　作成　関西大学　景観研究室（「1/25000 近江八幡」( 昭和 31 年発行 ) 上に加筆）

0m　250m　500m




## 体験談　Kさんの救助活動

当時の農家はみな田舟を所有していたため、夜が明けてから近隣の集落に舟で救助に向かった。氾濫水の流れが速かったので井口へは直接向かえず、安治を経由して辿り着いた。

## 取り井戸　比留田の「取り井戸」

○比留田の井戸水は鉄分が多く飲料水に向かないので、下 ( シモ ) の住宅では日野川の伏流水を水源とする、「取り井戸」と呼ばれる古式水道を使用していた。元池と呼ばれる井戸を 2 か所設けて、石で密閉することで水圧を利用し、元池の場所よりも標高の高い比留田の集落への送水を可能とした。
○各家庭の井戸へ配水する分岐箇所では、枕に 3 か所穴を開け、そのうち一本を個人宅の井戸へつなげていた。
○各家庭の井戸を掃除する際は、竹管から水が入らないよう太さのちょうどよかった茄子を詰めていた。
○元池は、圃場整備の際に埋められた。

### 取り井戸の位置

取り井戸の元池は、比留田の集落から日野川へ続く道の延長線と日野川との交差点 (★) から上流側へ 250m 遡ったところの日野川左岸堤防の法尻に一つ (❶)、そこから 50m さかのぼったところ (❷) にもう一つで、計 2 ヶ所あった。

### Kさん宅からみた氾濫水

上 ( カミ ) にある住宅からは、野洲川の決壊箇所から氾濫水が流れてくる様子が見えた。Kさんも自宅の裏からそれを確認した。

### 須原の被害

須原の床上浸水の被害が周辺で一番ひどかった。

### 凡例

- 集落の範囲
- 浸水範囲 ( 予想 )
- 救助に向かったルート
- 道路
- 河川
- 水路
- 堤防
- 決壊箇所

### 洪水後の野洲川河床の高低差

減水した後の野洲川の河床には、砂が堆積している場所と洗掘されている所があり、高低差が最大 4 ～ 5m ほどにもなっていた。これは、増水や決壊によって川の流れが複雑に乱れたためと考えられる。また、洗掘された河床の深みに魚（マス）が取り残されていた。これは急激に水位が下がったためであろう。

### 野洲川右岸の堤防決壊

25 日の夜中に墓地の近くで決壊した。

## 体験談　田舟による泥の掻き分け

氾濫水とともに流入した泥が堆積し、稲穂が沈んでしまった。その上を田舟で通ると、泥がかき分けられ、沈んだ穂が元通りに立ち上がった。田舟の通った跡だけ稲が立ち上がっていた光景をよく覚えている。

## 地形状況　比留田の「シモ」・「カミ」

比留田の集落は野洲川の扇状地上に位置しており、微高地をさらに人工的に嵩上げしてつくられたと考えられるため、周辺の田んぼよりも 1~1.5m ほど標高が高い。西側 ( 野洲川側 ) がカミ ( 上 )、東側（日野川側）がシモ ( 下 ) と呼ばれていて、カミからシモにかけて標高が低くなる。このため、洪水が起きた際はシモの住民がカミの方へ避難した。

### 比留田自治会館

比留田の中で一番標高の高い、公民館の高台に牛を移動させた。

## 被害状況　台風 13 号時の比留田

周辺の道路や田んぼは冠水した。田んぼは最も深いところで約 1m、道路は 30~40cm ほどで歩ける程度であった。26 日の 13 時には水はほとんど引き、浸水範囲には泥が少しだけ堆積した。住宅の浸水被害は少なく、あったとしても下の西の端にある最も標高の低い 1、2 軒程度ではなかったかと思われる。